



池田 誠
国際地域学部教授
専門は社会システム動学

地域活動実習

「地域活動実習」は地域のボランティア活動などの成果を大学の単位として認定するものだ。学生は事前に「実習実施計画書」を提出し、実習（60時間以上）終了後「実習レポート」を作成、その後単位が認定されることになる。国際地域学科では「経済社会、国際活動、情報技術」などの4種類の科目を実務資格科目として設置し、地域ボランティア・企業のインターンシップ・国際活動など、学生の自主的な取り組みに期待するとともに、大学としても活動の場を用意している。

池田教授は、東洋大学に1999年に着任し、キャンパス周辺の自治体を訪問したが、最も強く関心を示してくれたのが、館林市役所の菅沼さん（市民活動推進係長）だった。その時からの交流が基で、昨年4月から館林市の街づくりと市民活動をテーマにしたインターンシップが始められ、今回、国際地域学科の2年生4名が実習を行った。学生たちは、商店街での聞き取り調査やまちづくりを考える研究グループの活動にも参加、地域活性化の取り組みに広くかかわった。「市役所の仕事がいかに大変だとは思わなかった」という一方で、「まちのことを真剣に考えている人が多いことがわかり、刺激になった」という感想も聞かれた。「菅沼さんに学生たちを預けたらきつといい刺激になるだろう」と考えていた池田教授と、市民活動の活性化を考えていた館林市の狙いは的中したようだ。



中上 光夫
国際地域学部教授
専門は社会保障、社会政策

池田教授は菅沼さんと一緒に「来年度は学生がもっと市役所の中を自由に動き回れ、自主的に学べる形にしたい」と次年度の計画を練っている。

中上教授が担当した群馬県板倉町役場での実習には4人が応募し4つの課に配属された。企画財政課では町のバランスシートの作成に取り組み、環境課では町内各地のゴミステーションを巡回、福祉課では保育園・高齢者宅の訪問やデイサービスの実習など、学生は行政が行う様々な仕事を体験した。「実務資格科目の趣旨は、大学の外での貴重な経験は必ず得るものがあり、大学もこれを応援しようということですよ」と語る中上教授。「板倉町役場をあげて協力してくれるので、もっと多くの学生に応募して欲しい」と呼びかける。さらに、「行政機関の仕事を経験する機会にはめったにない。就職先を考える際にも参考になることが多いだろう」とインターンシップへのつながりも視野に入れる。

この他にも、サッカーワールドカップでのボランティア活動や水族館でのウミガメの産卵監視活動、館林市での「かれつじ議会」の活動などが「地域活動実習」として単位認定されることになるという。中上教授は「せっかくの体験もやりっぱなしではただの思い出。自分の体験、学んだことなどを整理してレポートにまとめることがとても重要ですよ」と強調した。また、池田教授は「自治体などの受け入れ側も大変ですが、学生に触れることで何かを得ていただければと思います」と今後の展望を語った。

完成まじか 白山再開発カウントダウン

●竣工前夜！気分は除幕式？

井上記念館の工事は竣工を目前に控え、記念館正面の玄関付近等の外装を残し、内装工事が進められています。工事現場では、足場と秘密のヴェール（安全シートのこと）が外され、ついに井上記念館の知られざる外観がその姿を現しました。気分は一足早い除幕式といったところでしょうか。ということで、見えたついでにちょっとだけ外装の特徴をお話しましょう。

雨水の森から井上記念館正面を見上げると、グレー？いやグリーンのような重厚な色合いの石張りの壁面が見えます。これは、「ヴェルテフォンテン」と呼ばれているグリーン御影石をつや消しと鏡面の異なる仕上げにして組み合わせたもので、井上円了先生像の台座の石（鏡面仕上げ）と同じものです。

また、壁面パネルの三角形を組み合わせた意匠は、この再開発で先にごきた建物と同じもので、白山キャンパス全体が統一されたデザインで構成されているのが分かります。どこまで気づいてもらえるかな？これらはいずれも設計や施工者と東洋大学とが共に細部までこだわり、またある時はしのぎを削り造り上げてきた結晶の一例です。

●ラストスパート

さて、建物は完成しても、それを使用するための様々な作業はこれからが本番です。完成予定の2月末前後はスケジュールが目白押し。設計者や大学にはじまり、東京都建築指導課や東京消防庁の検査、大学への引渡しの準備等が進められます。

その後は、新しい建物に移転する事務室の引越しや、教室で使う机・椅子等の搬入など、新学期からの諸活動に支障をきたさないよう細心の注意のもと、多くの人々がその日に向かってラストスパート…。そう、実際には「建物完成！バンザイ！！」それだけという訳にも行かないのです。

おっと忘れちゃいけない、とても大切な清掃や設備保守（メンテナンス）の準備もありました。

造る側、使う側とも心待ちにできたその日が目前です。次回は最終回、完成の姿をお伝えします。さあ皆さんも一緒にファイナルカウントダウン！！

